

熊野神社社叢 (両津市北小浦)

[県天然記念物 昭和37年3月29日指定]

石 沢 進

佐渡の熊野神社社叢のタブノキ1本が道路に倒伏し、その他のものも倒れる危険があるとのことで、7月中旬現地を訪れてタブノキの生育状況を見る機会があった。その際、調査したタブノキの現状を記録して参考に資したい。

熊野神社の社叢は、内海府の海岸に面した急斜面にあり、その中を県道が貫通しているので、上下に分断されている。今回は道路の上方のタブノキ10本に注目して、その大きさを測定してみた。なお、道路沿いに平行して南から北へ順番に調査した。

- No. 1 3本に根本で分岐、幹周り 125cm, 100cm, 140cm [お堂の上]
- No. 2 2本に根本で分岐、幹周り 250cm, 292cm
- No. 3 幹周り 150cm、フジが絡み、タブノキは枯死部分が目立つ。
- No. 4 幹周り 370cm、幹内に直径35cmほどの空洞あり。
- No. 5 2本に根本で分岐、うち1本は枯死、残りの1本は262cm、それにイタビカズラ(幹周り30cm)が巻きついて樹冠を覆っている。
- No. 6 幹周り113cm、健全であるが、キツタが絡みつく。
- No. 7 次のように2本に根本で分岐
幹周り305cm、フジ・イタビカズラ・キツタが絡みつく。地上約130cmのところには樹皮欠損部分(幹周りの1/3)がある。
幹周り215cm、キツタ・イタビカズラが絡みつく。
- No. 8 直径97cm(急斜面のため樹周り測定不能)
地上1-3mにかけて樹皮に欠損部分があり、空洞になっている可能性あり。

道路のすぐそば、キツタが絡む。倒れる危険も大きいとみられる。

No. 9 幹周り 550cm、地上1-2mにかけて幅 35cm、腐朽部分が露出。フジ・キツタが絡む。

No.10 幹周り 285cm、地上約3mで二股に分れる。イタビカズラ・フジ・ツルアジサイが絡む。

上記の他、熊野神社社叢には、道路より下方(海側)にタブノキの巨木13本程生育している。

熊野神社社叢内で最大の樹が No. 9 であり、これは、糸魚川市中浜諏訪神社の690cm、670cm、糸魚川市連台寺の569cmにつぐ、大きさのものとみられる(環境庁, 1991)。

また、この社叢には、新潟県では佐渡だけに分布するジャケツイバラ、南方系のイタビカズラの他、ハダカホオズキなどが生育しているので、林を構成するそれらの植物の保護も配慮することが大切である。

天然記念物の社叢内に、交通量のやや多い道路があること事態が、問題であるが、タブノキが倒伏の危険があるからといって、樹を次々と伐採してしまつては、天然記念物としての価値が失われかねない。社叢を迂回する道路が可能であるなら、その方策が最も理想的である。迂回道路に無理があるようでしたら、社叢の部分に人工のトンネルを建設して樹が倒れても危険のない状態にして、樹を伐採することなく、自然の推移のままにして貴重な天然記念物の保護に策を講じて頂きたいものである。

なお、調査には藤原 圭と榎 耐の両氏に御協力して頂きました。厚くお礼申し上げます。

環境庁(1991) 巨樹、巨木林調査報告書

(甲信越・北陸版) 15-11

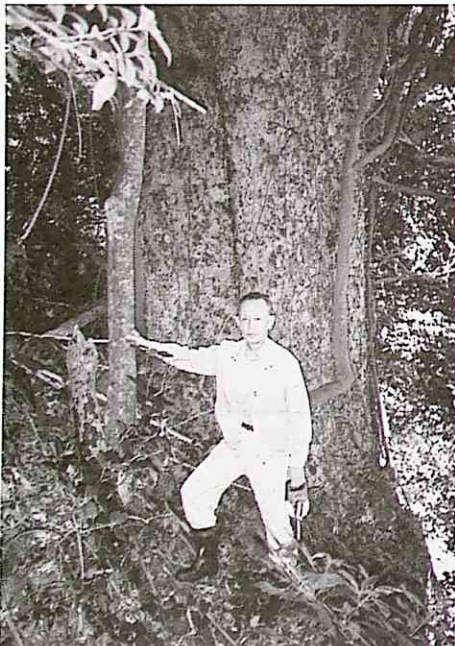


写真 熊野神社社叢内の最大のタブノキ (No. 9)



大樹に絡みつくる性のイタビカズラとフジ